

鹿児島島の歴史・文化の中心地を音楽と光の芸術で彩る「音とあかりの散歩道2017」が18日夜、鹿児島市立美術館や探勝園など3会場であった。16組の個人、団体による美しい調べと、約3000個の優しい光が、帯を幻想的に包んだ。

鹿児島市などが主催し5回目。10月の開催予定だったが、雨で延期された。今年は明かりの充実を図り、探勝園には鹿児島湾をかたどった市内4高校などの合同作品を展示。明かり約1500個を使い、桜島やイルカを浮かび上がらせた。

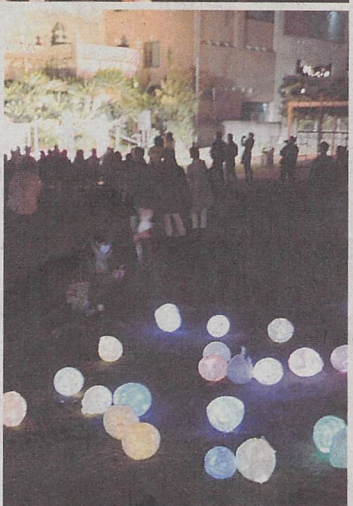
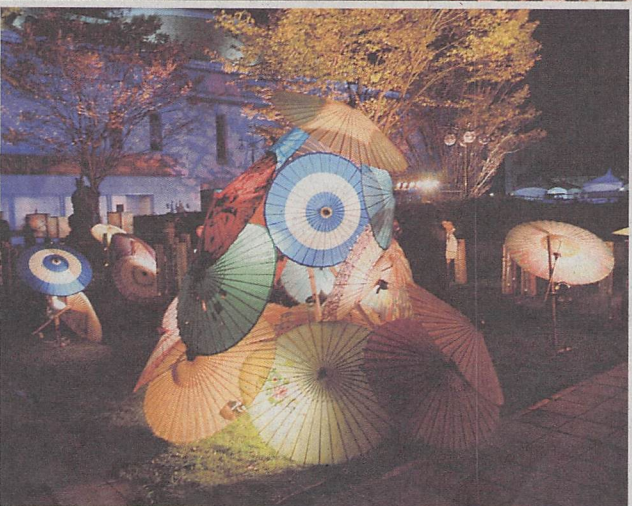
美術館前庭には松陽高校美術科・美術部1年生と市竹工芸振興組合による、明治維新をテーマにした和傘やあんどん、竹灯籠を展示。同科1年瀬ノ口紗恵さんは「芸術の美しさだけでなく、歴史も感じてもらいたい」と話した。

同館と照国公園のステージでは、ポップスや伝統芸能などが披露され、照明と音楽で演出する「光と音のファンタジー」も初めて実施された。

(勝目博之)

幻想に湧く歴史と文化のまち

音とあかりの散歩道



鹿児島湾をイメージした高校生の作品。奥に桜島、手前にはオレンジ色の明かりで作ったイルカがいる

鹿児島市の探勝園

色とりどりの照明と音楽ステージを楽しむ市民ら

鹿児島市の照国公園を明治維新をテーマに和傘を組み合わせた作品

鹿児島市立美術館